

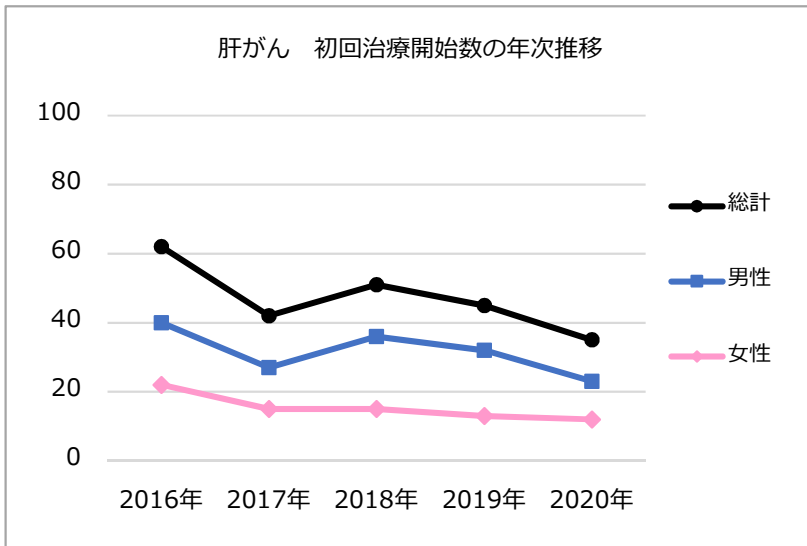


「院内がん登録」からわかる

君津中央病院のがん診療 ～2020年 肝がん～

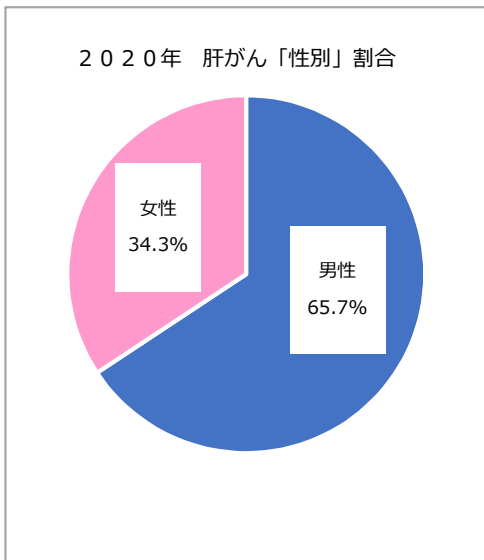
当院は、お住いの地域によって提供されるがん医療の質の差をなくすことを目的として地域ごとに設置されている「地域がん診療連携拠点病院」です。「地域がん診療連携拠点病院」の指定には、様々な要件が定められており、「院内がん登録」の実施もその一つです。「院内がん登録」は、施設が持つがん診療の機能を明らかにしてその情報を分析することにより、質の高いがん診療の体制づくりに役立てられることを目的に、実施されています。この「院内がん登録」のデータを基に、当院の2020年の肝がん診療の実態をお伝えします。

肝がん 初回治療開始数の年次推移

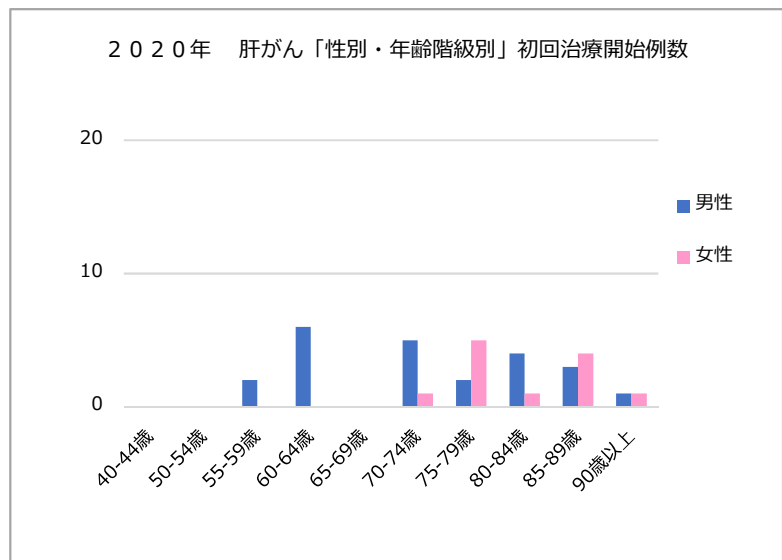


左のグラフは、当院で肝がんの初回治療を開始する方の数を示したものです。肝がんは、「大腸がん」「胃がん」「肺がん」「乳がん」と並んで「5大がん」の一つに数えられていますが、罹患数は減少傾向にあります。

2020年 肝がん「性別・年齢階級別」初回治療開始例



上のグラフは、当院の肝がんの性別割合です。男性の割合が高いです。

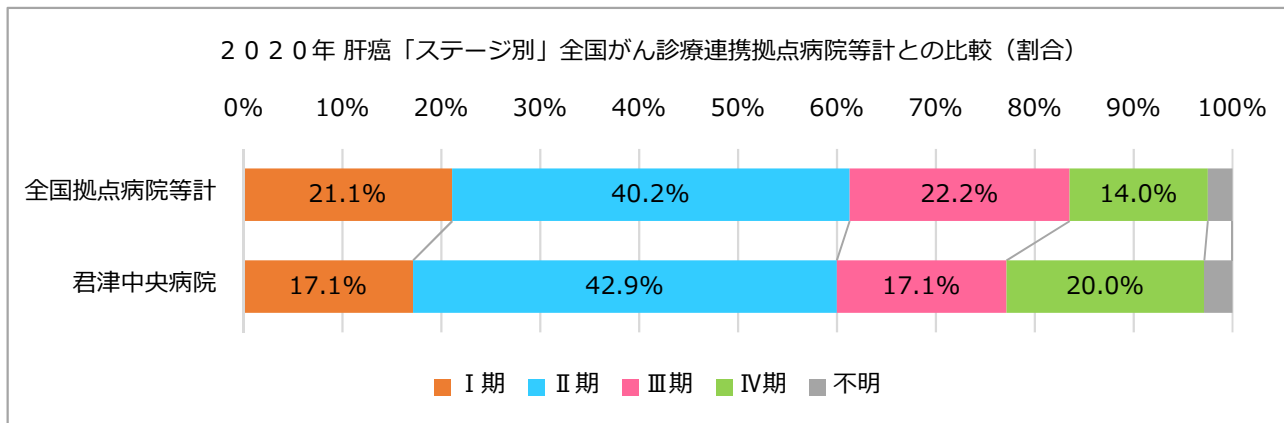


上のグラフは、当院の肝がんの方の年齢を示したものです。当院の平均年齢は、全体で76.1歳、男性が73.0歳、女性が82.1歳です。

<がんのステージについて>

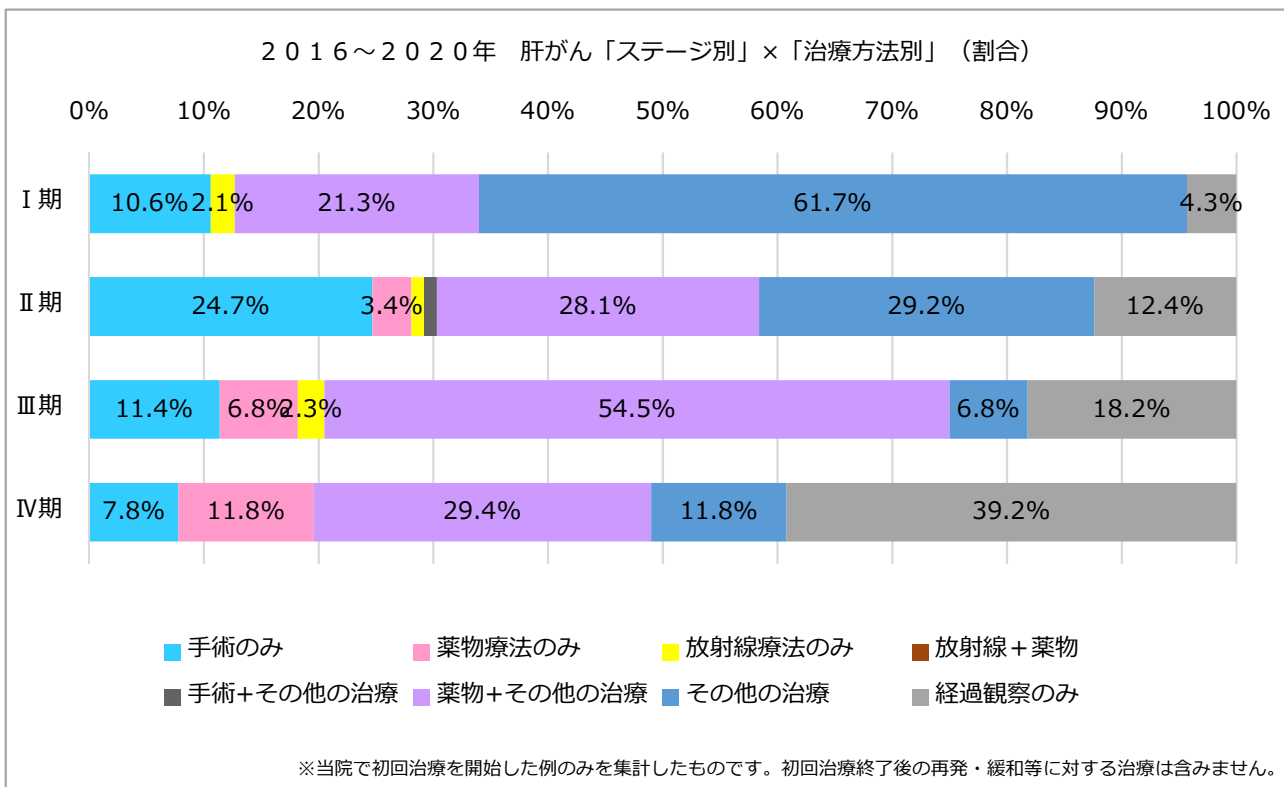
がんの進行の程度は、「ステージ（病期）」として分類し、ローマ数字で表記することが一般的です。肝がんは、進行するにつれてⅠ期からⅣ期に分類されます。院内がん登録は、UICC TNM分類という国際分類及び院内がん登録のルールに従い集計していますが、ここでは、臨床の実情を考慮して、日本で使用されている「原発性肝がん取扱い規約」の臨床ステージを用いています。

2020年 肝癌「ステージ別」全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



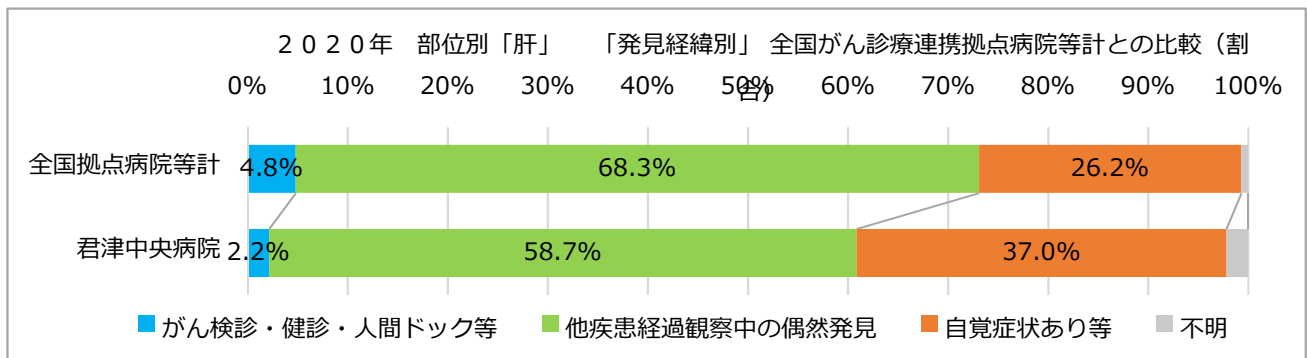
上のグラフは、肝がんの初回治療開始時点でのステージを示したものです。全国拠点病院等計と比較すると、Ⅳ期の割合が大きいです。

2016～2020年 肝がん「ステージ別」×「治療方法別」（割合）※症例数が少ないため、2016～2020年の累計値を用いています。



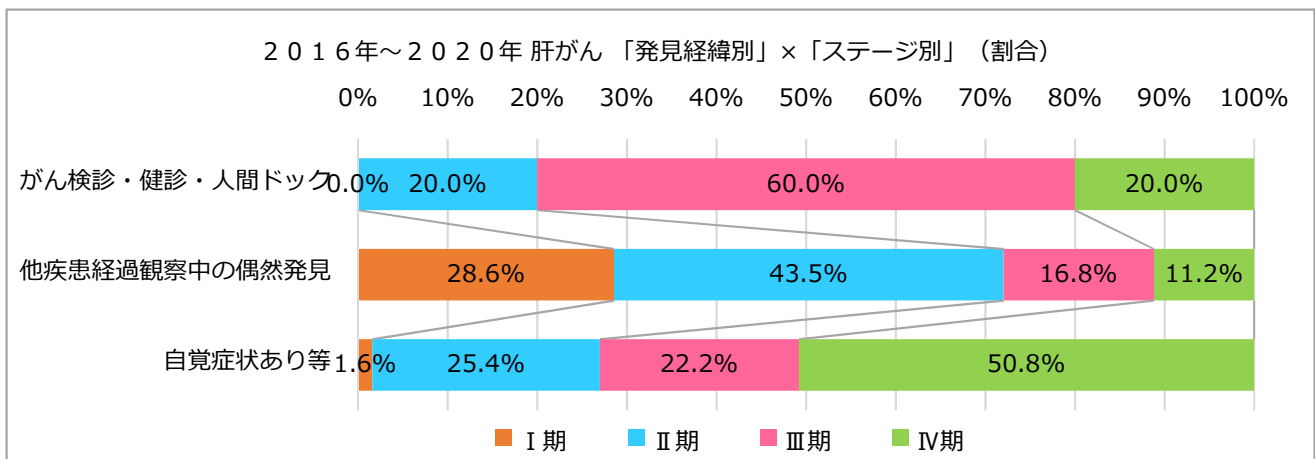
肝動注化学療法（TAI）、経皮的エタノール注入法（PEIT）、ラジオ波焼灼方（RFA）は、「その他」に該当します。治療法は、がんの進行の程度、全身状態、年齢、希望などを考慮して決定します。

2020年 部位別「肝」 「発見経緯別」 全国がん診療連携拠点病院等計との比較（割合）



上のグラフは、肝臓に発生した腫瘍が、がんとして診断されるきっかけを示したものです。当院は自覚症状によりがんが発見される例が全国拠点病院統計と比較すると多いです。他疾患経過観察中の偶然発見には、肝硬変等の肝疾患で定期的に通院している方を含みます。

2016年～2020年 肝がん 「発見経緯別」 × 「ステージ別」 （割合）



上のグラフは、当院で初回治療を開始した肝がんの方について、発見経緯別にがんの進行度を示したものです。肝がんは、お腹の張りやむくみ、黄疸等の自覚症状が出たときには、病期がかなり進行していることが多いです。脂肪肝や肝硬変等の肝疾患のある方は、定期的に医療機関を受診するようにしましょう。